

図書館リブメイト&文芸部が紹介！

1年生に オススメの本！

図書館リブメイトや文芸部が、
1年生に読んでもらいたい本を紹介します！

図書館リブメイトって？

付属図書館を中心に活動する組織で、主に図書館関連の情報を発信し、定期的に「リブメイト新聞」を作成するほか、ブックトーク等のイベントを運営します。活動は余裕があるときだけでOK！

リブメイトに興味のある方は
[コチラ](#)へご連絡ください。

リブメイト新聞→
ブックトークの感想や
文庫本ランキングを掲載



↑2019年開催のゲームイベントの様子



本の画像をクリックすると商大図書館の所蔵情報が開きます。
今度、図書館に来たら借りてみよう！



文庫・単行本とも
所蔵あり

三崎亜記 著

『廃墟建築士』 (集英社)

建物への不思議なフェティシズムが描かれた読みやすい短編集。
図書館についての話も載っているので、付属図書館で読むとより一層面白いかも。

リブメイトOさん (商経学部3年)



他の訳も所蔵あり

サン=テグジュペリ 作; 内藤濯 訳

『星の王子さま』 (岩波書店)

目には見えない大切なものが見つかる、とても優しい物語です。沢山の訳があるので図書館で読み比べてみるのも楽しいと思います！

リブメイトKさん (政策情報学部2年)



知念実希人 著

『屋上のテロリスト』

(光文社)

今の日本に疑問を持った二人の高校生が、テロ活動を通して日本を変えていく物語。
全く先が読めないストーリーと待ち受ける感動のラストは一読の価値ありです。是非読んでみてください。

文芸部Sさん (商経学部2年)

本の画像をクリックすると商大図書館の所蔵情報が開きます。
今度、図書館に来たら借りてみよう！

瀬戸賢一 著

『日本語のレトリック : 文章表現の技法』 (岩波書店)



文章で物事を伝える上で重要なのは、語彙を増やすだけでなく、日本語のレトリックによる豊かな表現方法を知ることだと実感します。大学ではレポート等の文章を求められる機会が多くなるので、ぜひ読んでほしい一冊です。

文芸部Oさん (商経学部2年)

H. G. ウェルズ 作 ; 橋本槇矩, 鈴木万里 訳

『モロー博士の島 : 他九篇』 (岩波書店)



南海の孤島で新しい人間を生み出す実験を行なっている博士。失敗作たちの生活。生み出された彼らがどんどん不穏になってくる恐怖がひしひしと伝わり、当時のイギリス社会にも通じたオチがありSFものとして面白いです。

文芸部Oさん (商経学部2年)

有川浩 著

『旅猫レポート』 (講談社)



文庫・単行本とも
所蔵あり

この物語で描かれるのは、主人公とその周りの人々の人生。猫との関わり、彼らの共通点はそれだ。そして最後に、旅猫レポートは優しく綺麗に完結する。特にreport4が心にくる。映画化もしているので、そちらが先でもいいかもしれない。

文芸部Tさん (政策情報学部2年)

本の画像をクリックすると商大図書館の所蔵情報が開きます。
今度、図書館に来たら借りてみよう！



文庫・単行本とも
所蔵あり

川村元気 著

『世界から猫が消えたなら』

(小学館)

世界から私の大切なものを消して生き延びたとしたら、それは本物の私でしょうか？
自分を好きになる選択をしたいと、思わされる物語です。

図書館スタッフIさん



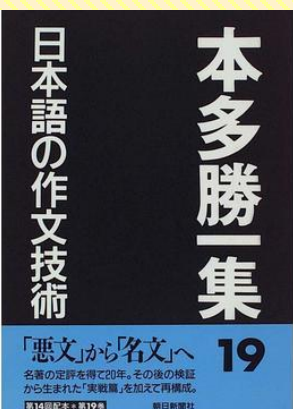
カルヴィーノ 作；河島英昭 訳

『まっふたつの子爵』

(岩波書店)

体が二つに分かれ、片方は悪、片方は善だけになった子爵。善と悪に翻弄される人々。善悪はどっちも迷惑!?そして、子爵の運命は...

図書館スタッフNさん



本多勝一 著

『日本語の作文技術』

(朝日新聞社)

「読む側にとってわかりやすい文章を書くこと」レポート等を書く際にとっても重要なことです。その技術は誰もが身に付けることができ、一生の宝になります。1年生に限らず、日本語で生きるすべての人に読んでもらいたい一冊。

図書館スタッフHさん